



つどいの樹

第2号

～ 学ぶ会だより～

2020年12月1日発行



出羽三山供養塔

2枚の写真に注目して頂きたい。どちらも出羽三山供養塔であるが、違和感がないだろうか。すぐにお気づきになると思うが、三山の名前の場所が違っている。中心に彫られた名前が2種類あることに注目して頂きたい。違いに気づくと、次になぜこのような違いが生まれののだろうかという疑問が生まれる。

私が所属する歴史サークルの見学会でのこと。何度目かの見学会の時に何気なく「なぜ、中心の山の名前に違いがあるのか？」と同行の先生に尋ねてみた。先生の言によると、湯殿山が中心にある碑は江戸時代から明治初期の建立がほとんどである。対して月山が中心にある碑の建立年代は明治以降のものであり、この違いは明治になって起きたできごとと関連しているとのこと。つまり、国家神道の強制と神社の序列化である。「どのように関わるのか?」「なぜ、順序が変わったのか?」疑問は尽きません。

(写真・文：遠藤 茂)



虹いろの風が吹く教室

山田 麗子 (「学ぶ会」副代表理事)

会員みなさまに、本年度教科書採択の結果をご報告します。学び舎は36校に、約5100冊が採択されました。コロナ禍で営業の学校訪問をすることができず微減となりましたが、5000冊を超えたことにほっとしています。新しい教科書を手にした子どもたちの姿を思い浮かべて力とし、これからの教科書づくりに励んでいきたいと思えます。

さて、巻頭言の表題を「風のいろ」としました。みなさんにとって今日の風は何いろでしょうか。「風にはいろはないでしょう」と思う方もいるかもしれません。ある美術の先生から園児が描いた風の絵の話の話を聞きました。風について対話をしながら想像力を膨らませて、子どもたちはそれぞれの風を描きます。絵には一人ひとり違う風のいろがありました。

従来の歴史学習はこれと対極にあったように感じます。答えを教科書から探して重要語句を暗記するような学習が、歴史離れを招いてきました。子ども自身の感じ方、考え方を尊重し、多様な発見や疑問が出るように、学び舎教科書2021年度版ではさらに内容を深めました。子どもの気づきから授業が始まり、さまざまな風のいろが教室に現れた時、子どもの学びは深く広がっていくことでしょう。

目次

風のいろ 虹いろの風が吹く教室	山田 麗子・・・2
今・学校で・教室で	
四半世紀、5000人の生徒が訪ねた「発信地で 発信者に聴く旅」	川口 重雄・・・3
交流の広場	
・現代史をともに考えるー東村山での試み	野口 明・・・4
・たしかにあの時代を生きた人びとがいた！	小川 碧・・・5
・「無名の人びと」がつくる歴史を学ぶ	北川直実・齋藤りつ子・・・6
・府中とつながる歴史を「学び舎教科書」でつかむ	大山 早苗・・・7
歴史の窓 感染症と近代日本ー「衛生警察」をめぐる	大日方純夫・・・8
学びを深める 第2回 もし、あなたのバイト先が「ブラックバイト」だったら	菅間 正道・・・9
随想 連載② 東京国立博物館の魅力	黒田 貴子・・・10
読者の声	・・・11
学ぶ会からのお知らせ	・・・12

四半世紀、5000人の生徒が訪ねた「発信地で 発信者に聴く旅」

川口 重雄（田園調布学園教員）

事前・事後2年にわたる学習体験旅行

田園調布学園中等部高等部（1926年創立。1学年約200名の中規模女性校）では、高等部1年で1996年度（1997年3月）以来、鹿児島県から福岡県まで西九州5県をめぐる5泊6日の学習体験旅行を実施しています。生徒に見てもらいたい、聴いてもらいたい、味わってもらいたい、そして考えてもらいたいと、教員たちが手作りで始めた行事です。右の表は、今年3月実施予定だった日程・コースです。

旅行の目的は次の4つです。「1. 朝鮮半島、諸外国との歴史的な関係を学び、今後の国際関係がどうあるべきかを考える。2. 水俣を訪れ、公害とは何か、そして将来の理想の環境の姿を考える。3. 諫早湾を訪れ、干拓事業を通して、これからの人間と環境の共生のあり方について考える。4. 長崎を訪れ、平和とは何かを考える。」

生徒たちは、高等部1年の4月から、なぜ九州に行くのかHRで学び、現代文の授業で、林京子『祭りの場』、石牟礼道子『苦海浄土』、司馬遼太郎『故郷忘じがたく候』を読み、世界史A・日本史Aで日本と朝鮮半島の歴史や長崎への原爆投下、生物基礎で水銀汚染や生物多様性と環境について学びます。

1年に及ぶ事前学習の後、学年末の3月に、25年前に旅行を企画した教員が名付けた「発信地で発信者に聴く旅」に出掛けます。生徒一人ひとりが、訪問先で発信者のどのような声を聴くか。それは旅から帰った高等部2年に引き継がれます。6月に一日校外学習で、原爆の凶丸木美術館・吉見百穴を訪ね、10月のなでしこ祭（文化祭）展示を経て、3月の体験文集の完成まで、旅は続きます。

現地と結ぶ「よかこプログラム」

2011年は東日本大震災後の旅行を8月に延期して3泊4日の短い旅に。そして今年は、新型コロナウイルス感染問題のために9月に延期のうえ中止。しかし、学習体験旅行委員会を中心とした生徒・担任教員は、旅行に代わる「よかこプログラム」を考

月日	行程	2020年3月27日（金）～4月1日（水）
3 / 27	羽田空港—鹿児島空港—鹿児島市内（奄美の里・昼食）—第15代沈壽官氏講演会（東市来文化交流センター）—壽官陶苑—鹿児島中別荘	8:15 10:10 10:40 11:40 12:30 13:20 14:40 15:00 16:00 18:00
28	中別荘—水俣地区環境プログラム—もやい直しセンター—鹿児島市内別荘—中別荘	7:30 9:30 12:50 13:10 昼食・講演 16:00 吉永理巴子氏 緒方俊一郎氏 18:00 20:00
29	中別荘—仙巖園・尚古集成館—コース別見学①城山②ふるさと館—中別荘—蔵之元港—牛深港—崎津天主堂—大江天主堂—ジャルディン・マール望洋閣 ※ハイヤ節講習会	8:00 8:15 10:00 ③黎明館④仙巖園じゅくり 12:10 (昼食) 11:50 13:50 14:00 14:30 14:35 15:15 16:15 16:30 17:00 17:30 19:30
30	ホテル—天草キリシタン館—鬼池港—口之津港—東葉九十九ベイホテル—干拓堤防道路経由—平和公園—爆心地碑—長崎アザレア（夕食）—ザ・ホテル長崎 BW プレミアコレクション ※平野伸人氏全体講演会	7:55 8:35 10:00 10:30 10:45 11:15 11:20 12:10 (昼食) ※堤裕昭氏講演 14:15 16:30 17:30 18:00 18:50 19:00 19:30
31	ホテル—長崎原爆資料館—長崎市内別荘自主行動（昼食各自）—同ホテル ※講演会（分科会）	8:00 8:15 9:30 ※OP被爆地フィールドワーク 軍艦島クルーズ 17:00 18:00
4 / 1	長崎—名護屋城址・博物館—呼子「海舟」（昼食）—福岡空港—羽田空港	7:30 10:15 12:00 12:15 13:15 15:00 16:00 17:50

えました。9月1日から4日間、オンラインで、長崎の3人の被爆者の語る被爆体験、諫早湾干拓問題や水俣病についての講演を聴きました。昼食は生徒の発案・手配で鹿児島の黒豚野菜蒸し弁当、長崎トルコライス、水俣市の食材を使った熊本弁当。九州をイメージした「スタンドグラス」（セロハン）も作りました。そして原爆の凶丸木美術館には25人ずつの少人数で訪ね、学芸員・岡村幸宣さんの解説を聴きながら作品を鑑賞しました。

プログラムを取材した朝日新聞・山下知子記者の朝日 Edua の記事もご参照ください。

<https://www.asahi.com/edua/article/13799873>

現代史をともに考えるー東村山での試み

ともに学び・ともに考える歴史授業の会（東京都東村山市） 野口 明

ともに学び・ともに考える歴史授業の会

学び舎の歴史教科書「ともに学ぶ人間の歴史」を活用した東村山での学習会は昨年6月の東村山子どもと教育懇談会の総会の際に発足し、今年に入ってコロナ禍の中を何とか定着させ、この9月で5回目を数えました。

この学習会は、現代史のさまざまな問題を、学び舎の教科書を使って掘り下げ、ともに考える場としてスタートし、2回目からは、参加者からも学びたいテーマを募集し、継続してきました。これまでに取り上げたテーマは「五日市憲法草案」、「沖縄を学ぶ①②」、「韓国・朝鮮を正しく知ろう①②」でした。

7月の「韓国・朝鮮を正しく知ろう②」では、まずハンゲル、陶磁器、通信使など文化の面を掘り下げ、最後に明治以降の主な条約の特色を学びました。朝鮮の民芸の研究に一生を捧げ民衆に愛された浅川巧に捧げる歌を「五日市憲法草案」のときの講師箱崎作次さんに紹介して頂き盛り上がりました。条約については日韓基本条約第2条の英語正文の解釈が今日の日韓の問題の根底にあるという指摘に息を呑みました。

「鉄の暴風」を実感

9月には、教科書の沖縄の項の執筆に関わった鳥塚義和さん(元千葉県高校教員)を講師にお迎えし、「沖縄を学ぶ② 沖縄は入っているかー日本と沖縄を考える」を開催。かりゆしウェアの鳥塚さんは授業の初めに黒い小さなビニール袋を参加者に手渡しました。触ってみると重くて固い。中身は、農家の方から頂いた米軍の砲弾の破片でした。



教科書の「鉄の暴風」という言葉が体感できました。沖縄を何度も訪れ、見て学び教えるという鳥塚さんのスタンスも伝わりました。

普天間飛行場

次に地形図の作業から考えます。農地と集落が広がる戦前の普天間(現宜野湾市)の地形図を見せて、米軍は飛行場をどこにつくったのだろう、と。ややあとで現在の地形図。見比べると、ワークシートにある「戦後に土地が強制接収され飛行場が建設されたことが普天間問題の原点」(翁長知事)という言葉が身にしみてわかりました。地形図を見ると、飛行場の滑走路すれすれに沖縄国際大学があります。

2004年8月13日の米軍大型ヘリ墜落事故の時も、夏休みで沖縄にいた鳥塚さんはすぐ現場に駆けつけて写真を撮りました。



また翌日の各社の新聞を買い集めました。見比べると、同じ一つの墜落事故なのに、沖縄の2紙と「本土」の新聞では驚くほど、扱いがちがいます。鳥塚さんが今回の授業のサブテーマに『「沖縄」は入っているか』と加えたねらいは、例えばこんなところにあるでしょう。

ワークシートには、菅首相が官房長官だった時のこんな発言が載っています。「私は戦後生まれなので、沖縄の歴史はなかなか分らない」(県と政府の集中協議、2015年9月)。政府の責任ある立場になかったとしても、仮に戦後生まれであっても、この発言はありでしょうか。翁長知事はこう答えています。「お互いに別々の戦後の歴史の時を生きてきたのですね」と。

休憩のあと、鳥塚さんに学び舎の歴史教科書の最新の情報をご紹介いただき、活発に質問も出て、閉会しました。……いかがでした？こんなふうに学習会を続けています。次回は3.11十年の節目の年、「大震災と原発事故」をテーマとして1月に開催予定です。

たしかにあの時代を生きた人びとがいた！

目からウロコの歴史教科書カフェ（兵庫県西宮市） 小川 碧

1. はじめに

私たち、新日本婦人の会西宮支部では、教科書展示会での出会いをきっかけに、2016年3月から「目からウロコの歴史教科書カフェ」を始めました。月1回、カフェ形式で、「学び舎版」と「I社版」との比べ読みをしながら、近・現代史の学び直しをしています。9人から始めましたが、最近は20数人位です。男女比も、教育関係とその他の人の比率も半々です。

阪神間ですので、日清戦争・日露戦争、韓国併合の単元で、それぞれ、台湾、中国、韓国籍の方に来ていただき違った観点からの意見が聞けました。「学び舎版」は「戦争について、きちんと教えている」という感想がありました。

2. ゲスト・ティーチャーから「生きた歴史」を学ぼう

そこで、引き続き、ゲスト・ティーチャーから学ぶことに重点を置きました。安井三吉氏（元孫文記念館館長）が会員の夫さんだったので来ていただきました。「戦火は上海、南京、重慶へ」では、日本が宣戦布告なしに中国に戦争を仕掛けていった経過がよくわかりました。

「戦争と二人の少女」では、西宮に「アンネのバラの教会」があるので坂本牧師に来ていただきました。プロジェクターを使って、ユダヤ問題から話して下さり、初めて聞くことばかりで、私たちは目からウロコが落ちまくり。また、平和のために行動す

る彼女らに感動しました。牧師は「学び舎版」をほめておられました。

「沖縄戦」のところは、琉球料理店を経営している仲村元一氏をお呼びしました。会の前後に三線で沖縄民謡を演奏して下さいだったので、コロナ禍で自粛あけの6月、皆ほっこりしました。仲村氏は祖父とおじが日本兵に殺された渡野喜屋事件を話して下さいだったので、皆、①日本軍は住民の命を守らなかった、②沖縄は本土決戦の時間かせぎにされた、この二点がしっかりわかりました。

「戦争中の暮らし」は、80代の女性から、唱歌による軍国主義教育、宮城遥拝、旗行列、慰問袋、疎開等々、子どもたちも戦争に協力させられていった経過を聞きました。

「町は火の海」では、80代～90代の方々から、西宮空襲、大阪大空襲、東京大空襲の話をお聞きしました。米軍の空襲が、非戦闘員の大量虐殺で、戦意失墜が目的なのに、日本側は「防空法」により、「逃げずに守れ」とされたことで、より犠牲を大きくしたことがわかり、双方の残酷さを知りました。

「餓死、玉砕、特攻隊」では、「総員玉砕せよ！」の抜粋コピーを読み、水木しげる氏の見識の高さに感心しました。宝塚の遺族会会長から見せてもらった「戦死の公報」には、その薄さにあきれました。

「原爆投下」では、二人の方から被爆体験を聞き、改めてその凄惨さに圧倒されました。

感想として、次のようなものがありました。

- ・お話を聞いてよかったです。語りつくことの大切さを思います。中学生たちが教科書で本当のことを知ること、想像することがどれほど大事か。いつもいろいろなゲストをお呼びいただきありがとうございます。
- ・単なる知識としてでなく、原爆投下のもとで、どんな酷いことが起こっていたのか「学び舎」の記述だけでなく、語りつぎを加えていただき、よくわかりました。自分ごととして捉えられるような教育を望みます。

3. これからのこと

引き続き、社会科の先生方に案内を出し、12月からは、T社（本市採択教科書）とも比べます。



「アンネのバラの教会」の坂本牧師

「無名の人びと」がつくる歴史を学ぶ

よりみちカフェ「憲法はじめの一步」(千葉市) 主宰者 北川直実・齋藤りつ子

学びのステップ1：自らの問いを学びに

2015年にスタートした私たちの学習会「憲法はじめの一步」は、5年目になります。千葉市稲毛海岸にあるカフェ「どんぐりの木」には、毎月1回、第4木曜日の午前中に、10~20名ぐらいの、年齢も個性もさまざまな方達が集まってきます。

最初は「日本国憲法」のことを丁寧に、弁護士さんと共に学んできたのですが、3年ぐらい経った頃から、「憲法って実は自分たちの暮らしとつながっている」ことなのだからと、生活の中で知りたいこと、疑問に思ったことならば、なんでもテーマとするようになりました。

2019年は、前年12月に沖縄のスタディーツアーに参加されたSさんの旅の報告を2回にわたって聴きました。私たちは沖縄のこと、特にアメリカの統治下時代に、沖縄で何が起こっていたのかを、何も学んでこなかったことに気づいたのです。

「沖縄の戦後の歴史について講義を受けたい」という声のすぐにあがりました。それならば、Sさんが参加したツアーの団長さんで、中学校の社会科講師をされているKさんをお願いしようということになったのです。

学びのステップ2：人びとが生きた歴史を知る

Kさんは『ともに学ぶ人間の歴史』の執筆者の一人。講座「教えられてこなかった沖縄の戦後史」のテキストとして、この教科書が使われました。おそらく、参加者のほとんどの人にとって、頁をめくり声に出して読んでみることは初めてだったと思います。本文1頁目、沖縄戦で犠牲になられたすべての人の名前を刻み追悼する「平和の礎」が目飛び込んできました。私たちの気持ちに呼応するかのように、沖縄から「歴史に出会う」ことを誘っている教科書です。Kさんはたくさんの資料を読み込まれ、現地に何回も足を運ばれ、まさに生きた歴史の証人の声を直接聴き、「知った以上は知らせていかなければならない」という熱い思いをもって講義をしてくださいました。

学びのステップ3：互いに感想・意見を共有する

私たちは、お茶を飲みながら、みんなで話をする時間を大切にしています。自分とは違う感性・考え

方には小さな驚きや発見があります。後日メーリングリストでも、お互いに感想や考えたこと等を交換し合います。生活の中でじっくりと学びを深める大切なステップなのです。以下に参加者の感想を一部ご紹介します。

*ずっと1945年終戦を迎えてからは平和な戦後が続いていると思っていましたが、沖縄は今の今まで、日米の政府と無関心な私たち本土の人間によって、苦しみを味わい続けているのだと痛感しました。

*由美子ちゃん事件、宮森小学校事件等、想像を絶する事件やプライス勧告のような全く人権を認めない米軍の支配に対して怒りと絶望を感じていましたが、そんな中でも瀬長亀次郎さんが投獄されてもなお立ち上がり続けたこと、命がけで憲法をこっそり学生が沖縄に伝えたこと、銃を構える米軍も手に負えないほどの大きな群衆が怒りをぶつけたコザ事件を知り、人の強さに勇気づけられました。

*Kさんの授業は案の定素晴らしい授業でした。ああいう授業を受けられたら、どんなに歴史が好きになったろうと思います。英雄や著名な人を中心にした歴史が多いですが、本当の歴史はそこで暮らした人の生活や文化や闘いがわかる、人間の歴史なんですよ。

その後、私たちは『ともに学ぶ人間の歴史』を手にし、沖縄の次は、お隣の国のことをもっと知ろうと「韓国・朝鮮と日本の歴史」を学び始めています。沖縄でも韓国・朝鮮でも、そこで確かに生きた無名の人びとは、私たち一人ひとりに重なって思えるのです。歴史をつくるのは、英雄や国ではなく、人間であり無名の人びとだということをこの教科書が改めて教えてくれました。

「活字にすれば一行で終わるような事件や出来事の中におびただしい人間のドラマがあることは、頭ではわかっているがなかなか実感できるものではないのだと、今回また新鮮な気持ちで感じました」はMさんの言です。

*憲法はじめの一步@café どんぐりの木

<http://dongurinoki.info/>

府中とつながる歴史を「学び舎教科書」でつかむ

子どもと教科書を考える府中の会 大山早苗

「学び舎・中学校教科書を読む」学習会のきっかけ

2015年教科書展示会で「学び舎・中学校教科書」を読んだ私たちは、「大判で読みやすい。面白そうだ」と感じたので、2016年1月、山田麗子さん（子どもと学ぶ歴史教科書の会・副代表）を講師に学習会をしました。教科書の第1章、文明のはじまり「木から下りたサル」「ラミダス猿人の骨格図」を使って、お話が始まりました。山田さんの授業を受け、新しい発見と驚き、胸がワクワクしました。「中学校でこんな面白い歴史の授業を受けていたら嫌いにならなかったよね」という感想がたくさんでした。

その勢いで、「学び舎・中学校教科書」をみんなで読もうということに発展しました。「毎回講師を呼ぶのではなく、自分たちでレポートしよう」「原始・古代から順番じゃなくてもいい」ということで、「このテーマで私、レポートします」と手を挙げてくださった方をチューターに4年間続けてきました。いつも教科書採択のとりくみが終わって、秋から連続して学習会を開いてきました。今年はコロナ禍でできませんでしたが、来年は学習会を再開したいと計画しています。

府中地域から「満蒙開拓青少年義勇軍」に参加した少年たち

では、どんな学習会をしているか、その一端として、昨年12月の第20回「学び舎教科書を読む」学習会のようすを紹介します。まず、教科書の「日本の満蒙開拓と中国人農民」という記述をみんなで読みます。開拓団の女性たちが鍬やスコップではなく、銃をもっている写真にびっくりします。「開拓団が武装した中国人農民に襲撃された…」に、開拓とは名ばかりで、中国人から略奪した「開拓村」だったというのが分かりました。

次に、レポーターの宮井迅吉さん（府中市民）が資料に基づいてお話をしました。図書館で偶然手にした人名録を手掛かりに、埋もれていた戦時中の府中地域のできごとを発掘しました。一つは、「満蒙開拓青少年義勇軍の軌跡」と題した北村昭三さんの手記でした。この手記には、「1943年卒業の7名の少年たちが満蒙開拓義勇軍に参加した。10人兄弟の末

っ子として西府村の農家に生まれ、帰国後は是政で米穀商を営んだ。1943年の渡満者には八王子から三鷹まで三多摩からも多く参加した」ことが記されていました。

もう一つは、『府中第一小学校百周年記念誌』です。それには、当時校長だった吉田亮氏が「1942年国の施策として満蒙開拓青少年義勇軍の計画があり、全国から募集した。小学校から9名応募。卒業直前の3月内原訓練所に入所。約1年の訓練の後渡満し、昌凶に入った。…昭和18年東京府の慰問団（7名の校長）の1人に加わった私は彼らの入植地昌凶を訪ねたが、内原精神で鍛えている姿に安堵したものだ」と思い出として寄せた文が掲載されていました。

また、国策を積極的に担っていく意志決定は小学校校長であり、それを後押しする「府中教育会」が存在していました。少年たちを数多く動員するため、「府中教育会」主催で「府中町母の学校」が1943年に開かれました。その資料には「決戦下、銃後も戦場。一億こぞって勝ち抜かなければならぬこの戦争。…母たる責務は重大。この責務を負う母には母の道を実践し、家庭教育の向上を図りたい」とあり、この講演会には、明星学園の校長、府中町長、国民学校の吉田校長（前記）、大國魂（おおくにたま）神社の宮司などが講師として並んでいました。

なぜ府中は多くの「青少年義勇軍」を送ったのか

お話の後、参加者から質問や感想が次々に出されました。「満蒙開拓青少年義勇軍」といえば、長野県が多くの人を満州に送ったことは知られています。農村地帯で農家の次男・三男の行き場がなかったことによるものです。また長野県は、戦前の教員らのいわゆる「赤化事件」により多数の逮捕者を出した信濃教育会が、その汚名挽回に軍部の先兵となって「駆り出し」に躍起になった結果でもあります。三多摩の中でも府中が一番多く「青少年義勇軍」を送った理由は、長野県と似たような状況があったからだということが、今回の学習で分かりました。

このような学習会をこれからも続けていこうと思っています。



感染症と近代日本 —「衛生警察」をめぐって

大日方 純夫 (コアアドバイザー・早稲田大学教授)

新型コロナウイルスによる感染症の流行が、感染症の歴史への関心を駆り立てます。私は近代日本警察史を研究テーマの一つとしていますが、そこには感染症との関わりで想起すべき重要な過去が含まれています。以下、その一端に触れてみることにします。

1 衛生は警察の管轄

1885年6月、内務省警保局が編纂した『警務要書』という上下2巻の本があります。これは、警察の執務に関する参考書のようなものですが、その下巻第三篇は「衛生警察」です。中身は、検疫、種痘、飲食物(菓子・果物・蔬菜類、鳥獣魚肉類、酒醬油類、牛乳、氷雪)、飲料水、遊泳、着色料、医薬、家畜、屠場、墓地・火葬場、汚穢物の11章からなり、それぞれに関する取締り方法を細かく指示しています。これらが、当時、衛生警察として考えられていた事柄です。

衛生警察を実際に担当したのは警察署です。1886年7月の地方官官制では、衛生に関する事項は各府県の第二部の所管とされ、衛生課が設置されましたが、郡区単位では警察署が正式に衛生行政を担当することになっています。感染症の予防、消毒、検疫など、衛生に関する事項は、警察署の管轄とされていたのです。なお、1890年、地方衛生行政は、一時、制度上、警察の手から離れますが、1893年、ふたたび警察部の所管となり、1945年の敗戦までつづくこととなります。

2 清潔な地域づくり

1897年3月、政府は伝染病予防法を制定し、コレラ・赤痢・腸チフス・痘瘡・発疹チフス・狸(しょう)紅熱(こうねつ)・ジフテリア・ペストの8種を法定伝染病としました。同法は第6条で、清潔方法および消毒方法は命令をもってこれを定めるとしましたが、これとむすびついて、清潔な地域を行政的に作りだそうとする措置が強められました。1897年5

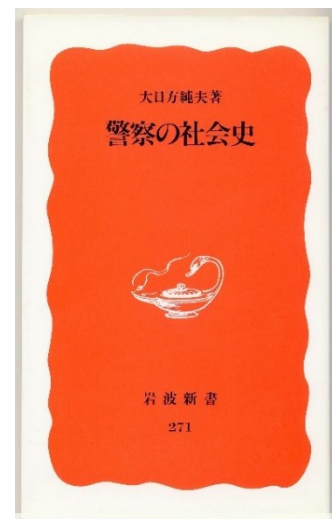
月、内務省は伝染病が発生した際の清潔方法と消毒方法を定めました。1900年3月には汚物掃除法を制定して、市内の土地所有者は、命令の定める所によってその地域内の汚物を掃除し、清潔を保持する義務を負うとしました。このほか、1900年には衛生への取り組みが総合的に打ち出されていきます。環境衛生と食品衛生についても法的な規定が固められました。

3 住民監視組織 —衛生組合

1890年11月、伝染病予防は原則として市町村が負担する事務とされ、市町村では便宜、衛生組合を設けてこれにあたりと定められました。これにそって各地域では衛生組合の設置がすすめられていきます。衛生組合は、居住する全住民を、家を単位として組織し、住民を衛生へと駆り立てるためのものでした。相互協力、相互監視によって、地域のなかから衛生体制をつくりあげ、行政を下からささえさせようとしたのです。

1897年3月に伝染病予防法が成立してから、衛生組合の設置が全国規模で本格化していきます。そして、末端での衛生行政は、県郡の官吏とともに、警察官の監督・指導をうけて展開されていきます。こうして、相互監視機能を期待された衛生組合は、警察活動のなかにくみこまれ、警察協力組織として機能していったのです。

以上、2020年、社会的風潮の一つともなった「自粛警察」と、相互監視的な社会状況を想起しながら、近代日本における「衛生国家」の一端に目を向けてみました。



大日方純夫『警察の社会史』岩波書店、1993年



子ども・若者を主権者／市民に育てよう―「知憲」「学憲」のススメ

第2回 もし、あなたのバイト先が「ブラックバイト」だったら

菅間 正道（自由の森学園高校教頭）

労働三権とは

社会権のひとつ、労働権あるいは労働三権は、日本国憲法ではこう記されている。

<第27条>

すべて国民は、勤労の権利を有し、義務を負う。賃金、就業時間、休息その他の勤労条件に関する基準は、法律でこれを定める。

<第28条>

勤労者の団結する権利及び団体交渉その他の団体行動をする権利は、これを保障する。

しかし、授業の冒頭でこれを紹介して、ピンと来る、あるいは「自分ごと」になる生徒はほぼ皆無と言っていいだろう。「他人(ひと)ごと」から「自分ごと」に近づける憲法学習においては、教材と問いとの出会わせ方に工夫を凝らす必要がある。中学生が相手であれば、こう問いかける。

こういうコンビニでバイトしたら

「みんなの中には、高校生になったら、アルバイトをしてみたいって人もいると思う。そこで、ちょっと聞いてみたい。あなたが次のようなコンビニでアルバイトをすることになったら、どうするか?」と。

「①週末、朝9時からのバイトだが、給料は15分単位の計算で、8時46分に出勤記録をつけてくれと言われる。②レジの違算金100円、200円をたまに自腹で負担する。③休憩時間も、場合によってはレジのヘルプに入る」という状況。これに対して、「ア 辞める」「イ 問題があると思ひ声をあげる」「ウ 問題はあると思うが何とか耐える」「エ 問題はないと思う」「オ わからない」の5つの選択肢を

入り口に、生徒の声を聞き、意見交流をしていく(高校生相手の「政治・経済」の授業では「自分はこう思う」という一人称的知の交流の中で、何人かは自身のバイト経験を開陳するものもいる)。そこから労働基準法の違法性をくぐって憲法学習にせり上げていく(詳しくは、拙稿「もし、あなたのバイト先が『ブラックバイト』だったら」『答えは本の中に隠れている』岩波ジュニア新書 2019)。ちなみにこの話は本校の生徒の実話である。生徒が、この現実はどう立ち向かったか、それをどうふり返ったかは、本稿では割愛せざるを得ない。

「自分ごと」に近づける

この授業では、ブラックバイトがテーマであったが、生徒が会う問題状況はできる限りリアルに描くことが不可欠である。絶対に「子ども騙し」にはしない。どういう経過や状況の中で個人の人権侵害が起きているのか、その細部を丁寧に描くことが肝要だ。それは“自分が足を踏まれて痛い”ことを疑似体験することであるし、また“自分は足を踏まれていないけれど、隣人が足を踏まれている”ことへの想像力や切実性、または共感を大切にすることと言える。それらを抜きに行われる憲法学習は空疎である。

憲法は決して子どもたちの生活と無関係ではない。日々報じられる、ブラックバイト／ブラック企業問題、子どもの貧困、学費問題など、いずれも子どもたちの「幸福追求権」と密接に関係している。憲法を「他人(ひと)ごと」から「自分ごと」へ近づけるために、まずは「知憲」「学憲」を一言うまでもなく、私たち大人社会の課題でもある。

黒田 貴子 (中学校講師)

鳥獣戯画に惹かれて

中学3年生の12月に、父の転勤で、大阪から東京に戻ったとき、ぜひやりたいことがありました。上野の国立博物館に行って、鳥獣戯画を観ることです。ある雨の日、一人で博物館を訪ねました。見学者もまばらな館内で、まっすぐに鳥獣戯画のコーナーに行き、ガラスに額が触れそうなほどの近さから、活き活きと描かれた絵に見入りました。

どれだけ時間が過ぎたでしょうか。ふと視線を感じ、顔を上げると警備員の方がこちらを注視しています。あの娘はガラスケースを割って、鳥獣戯画を盗むのではないかと、という視線でした。年輪を重ねた今なら、微笑みながら会釈して鑑賞を続けるでしょうが、そこは15歳の娘。顔を赤らめて、展示室を後にしたのです。そして、立ち寄ったミュージアムショップで、ミニチュアの絵巻物シリーズを見つけたときの嬉しさ！お財布の中身を確認めながら、中学生にとっては少々高価な鳥獣戯画絵巻の甲巻を買い求めたのでした（このミニチュア絵巻は、今も授業で大活躍しています）。

法隆寺宝物館

東京国立博物館（以下、東博）のオススメは、法隆寺宝物館です。20年前にリニューアルされるまでは、保存のため、開館は木曜日の晴れた日のみでした。都内見学で生徒たちに見せたいと見学日を木曜に設定しても、雨が降れば入れず、がっかりしたものでした。いまは、その制限もなくなり、それまでは、ケースに横に並べてあるだけだった小さな金銅仏が、ひとつひとつガラスケースに収められ、ミニスポットライトにより、四方八方から心ゆくまで鑑賞出来るようになりました。他にも伎楽面、古代裂、仏具など、国宝11件、重要文化財181件が収められているとのことです。

なぜ、法隆寺の宝物が、東博にあるのでしょうか？それは、「明治維新」の時に全国的に吹き荒れた廃仏毀釈の嵐が、法隆寺にも襲いかかったからなのです。法隆寺は、宝物の一部を皇室に献上し、下賜金によって荒れ果てた寺内を修復しようと考え何と1万円



（いまのお金にすると1億円以上！）の下賜金を得て、苦境を脱したのでした。

その後、GHQによる皇室財産の制限のため、法隆寺の宝物は国の所有となり、法隆寺からは返還の要求も出されたりしながら、現在に至っています。

生徒たちにも、東博を訪ねるときには、法隆寺館に行くことを勧めます。一步展示室に入ると、整然と並ぶガラスケースの金銅仏に息を呑みます。静かにひとつひとつ見入っている生徒に近づき「可愛いでしょう？この仏像の多くは、朝鮮から渡ってきたのよ」と小声で説明します。

摩耶夫人及天人像（釈迦誕生の場面）の周りに数人を招き寄せ、「これは釈迦誕生の場面なんだけど、釈迦はどこにいるかな？」と問いかけます。右袖から覗いている釈迦の姿に「ありえない・・・」と驚いた生徒たちが、他の生徒たちに「どこから生まれる？」と、教え合いが始まります。そして、金銅仏を見て「これって、教科書に出ている仏像と同じポーズだ」などと、ささやきあいながら法隆寺館の魅力を満喫する生徒たちの姿を眺めるのは、至福の時です。

「明治維新」と廃仏毀釈

それにしても、廃仏毀釈によって、どれほど多くの文化財が失われたことでしょうか。人々の信仰が強制的に替えさせられたこと、その後、国家神道が果たしたことなどにも思いを馳せ、「明治維新」とは何だったのかを考え続けたいと思うのです。



読者の声

●『ともに学ぶ人間の歴史』を開いて

この歴史教科書を開いてすぐに「目次」を見た。最も印象的だったのは「第4部近代」から「第6部現代」への移行過程に「第5部二つの世界大戦」をおくという構成で、第4～6部の個別内容を通読してみた。特に第6章と第7章の構成、つまり世界的な流れの中で近代国家・日本への歩みをたどるという構成と時代区分に大きな魅力を感じた。さらに、各節のテーマ設定と時期区分にも関心を寄せてみると、ほぼ納得がいく内容だった。また、各節が見開き2頁で理解しやすく、資料の扱いも丁寧で、配置も多様、とてもカラフルなのに感心した。

実は、私は昨年3・1独立運動100周年にあたってブックレット『韓国民主化100年史』を刊行し、その続編として『日本近・現代150年史』を準備しているため、時代・時期区分とテーマ設定に関心が深い。そこで、自分のそれと比較してみると多くが重なり、異なる点も意見交換してみたいと思う点が多々あった。もっとも、私は「朝鮮・韓国とともに歩む」という副題をつけ、朝鮮・韓国との関係を重視しているため、多少のズレがあるのは当然かもしれない。そしてだからこそ、話しあう意味がある。

いずれにせよ、このような歴史教科書が今日の日本で作成、刊行されたことは画期的で、極めて大きな意義がある。今後学校ばかりでなく、市民レベルの歴史認識を培う上でも最適なテキストとして広範な人々に活用されることを願う。この点に関して、今後「学び舎」の方々と幅広く意見交換できればと思う。やがて来る「大転換」に向きあうためにも。

(東京都・翻訳家 青柳純一)

●子ども・若者への願いが込められている教科書

私は高校で30年以上ほとんど、公民科(現代社会・政治経済)を担当している教員です。その視点から「学び舎中学歴史教科書」を読みました。

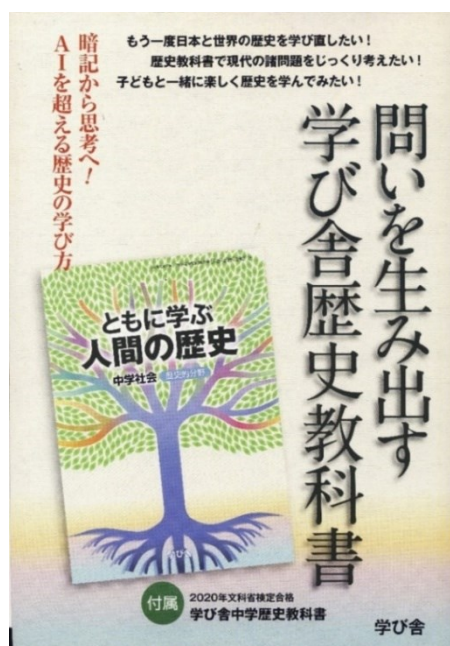
近現代部分、約150年間の分量が約120ページあり、全体の44%もあります。その時々生きてきた人々の姿が鮮やかに見えてきます。支配者、権力者からの歴史ではなく、途上国、沖縄・アイヌなどの少数民族や、女性、労働者、被害者や抵抗者からの歴史が、まさに「総合的、俯瞰(ふかん)的な観点」から描かれています。写真や絵画などの史料も意味深く、考えさせるものが多いです。

現代の部分は、16テーマ(32ページ)のほとんどすべてに、子どもの声、若者の姿が紹介されており、子どもの目線に寄り添った記述であることに注目しました。歴史(未来)を切り拓いていくのは、若者たちであるという願いが込められていることがわかります。

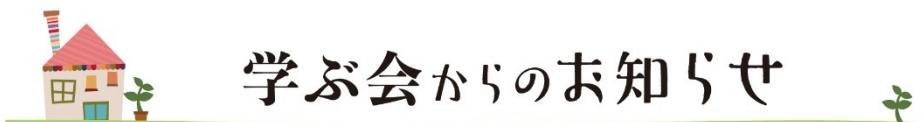
最終テーマ「未来は私たちの手の中に」では、不当なバイトに労働組合を結成して声を上げた高校生の話が出てきます。このうちの一人が私の息子で、教科書に載っていることを知らせると「すげー、知らなかった」と申していました。現在は大学生で、学生ユニオンの活動をしています。このように、学びを自分の生活に結び付け、行動することで、新たな歴史は作られていくのです。このことがこの歴史教科書のメッセージなのではないでしょうか。

今後、子どもと学ぶ歴史教科書の会と「学び舎」のみなさまには、教科書のデジタル化を見通して、教科書準拠の「補助映像教材」を作っていただけませんか。また、高校歴史教科書の発行も展望していただけると、さらに夢が広がります。そのためには多くの人に支援の輪を広げていきましょう。ともに歴史を作っていきましょう。

(千葉県・高校教員 條 冬樹)



『問いを生み出す学び舎中学歴史教科書』(付属 学び舎中学歴史教科書、定価2700円+税)好評発売中。ご注文は、学び舎へ。



学ぶ会からのお知らせ

一般社団法人「学ぶ会」HP 全面リニューアル完成間近！

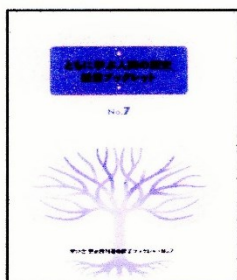
今回の全面リニューアルは、先生方と市民のみならず、さらに学び舎教科書で学ぶ中学生にも参考にしていただけるホームページ(HP)をめざしました。

◇まず、教科書の特色と授業実践記録、そして「指導書」サンプルを掲載します。太字(ゴシック)のない教科書の意義と問いを生みだし考える授業のあり方を先生方に問題提起しています。

◇学び舎歴史教科書は、市民のみならずとともに歩んできました。資金面で応援していただくとともに、研究会で歴史の学び方や教育のあり方について意見交換をしてきました。また各地に生まれた学び舎教科書を使った市民学習会とも交流してきました。このような多彩な記録を HP に掲載し、今後も多くの市民のみならずとともに学びあっていきたいと考えています。どうぞご意見やご感想をお寄せください。

◇子どもたちが歴史を学ぶときの「リンク集」を作成中です。今までも学び舎教科書で学ぶ中学生から質問が届き、交流がありました。これからは、多くの中学生が「学ぶ会」HP を訪れ、歴史の学び方や調べ方についての交流が生まれることを期待しています。

◇私たちは、この学び舎歴史教科書を今後も継続してつくり続ける決意で「学ぶ会」を社団法人化しました。おかげさまで、社団法人「学ぶ会」の会員は、500 名を超えました。あたたかいご支援ありがとうございます。会員のみならずの方が、この HP を活用し、さらに多くの方を会員にお誘いいただけるよう願っています。まずは、[学ぶ会 Q](http://manabisha.com)(<http://manabisha.com>)で検索し、じっくり読んでいただければうれしいです。



A5判 700 円+税

「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット No. 7

●奈良時代の人々の日記を書こう ● コロナ禍、教育にも大きな変容が迫られている。しかし、やっぱり大切なのは、教師と生徒が向き合いやり取りを重ねる授業。

●ラッコと「夷酋列像」 ● アイヌの首長たちを描いた異様な迫力の「夷酋列像」と可愛いラッコから、読み解く江戸時代後半のアイヌの人びとをめぐる日本と世界。

●「国病」の根を断ち「万民安穩」を願う ● 幕末、十数万人が参加した武州世直し一揆の具体像に迫る。

●「教室」からみたハンセン病問題 ● ハンセン病問題から知るコロナパンデミックの今への警告。

ご注文は学び舎へ 電話：042-512-5960 E-mail manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp



一般社団法人
事務所住所 東京都立川市錦町3-1-3-605
メールアドレス manabukai@mbf.nifty.com
ホームページ <http://www.manabisha.com>
編集・発行 一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会
タイトルDesign 株式会社久保田デザイン工房

